

## 2020年7月 国際放送番組審議会

2020年7月のNHK国際放送番組審議会（第671回）は21日（火）NHK放送センター（ウェブ会議）で11人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず最近の国際放送の動きについて説明があり、意見交換を行った。引き続き、「NHK Documentary UNSOLVED CASES Oswald and JFK」について説明があり、意見交換を行った。最後に、国際放送番組の放送番組モニターと視聴者意向の報告を行い、会議を終了した。

### (出席委員)

|      |       |   |
|------|-------|---|
| 委員長  | 河合祥一郎 | (東京大学大学院総合文化研究科 教授)   |
| 副委員長 | 河野 雅治 | (日本国政府代表・中東和平担当特使)  |
| 委員   | 岡田 亜弥 | (名古屋大学大学院国際開発研究科 教授)  |
| 委員   | 鎌田由美子 | (株ONE・GLOCAL 代表取締役、クリエイティブ・ディレクター)                          |
| 委員   | 阪田 恭代 | (神田外語大学外国語学部 教授)  |
| 委員   | 佐藤可土和 | (クリエイティブディレクター、株サムライ 代表取締役)                                 |
| 委員   | 佐藤たまき | (古生物学者、東京学芸大学教育学部 准教授)                                      |
| 委員   | 田中浩一郎 | (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授、<br>(一財)日本エネルギー経済研究所理事 兼 中東研究センター長) |
| 委員   | 中曾 宏  | (株大和総研 理事長)   |
| 委員   | 平子 裕志 | (全日本空輸株 代表取締役社長)  |
| 委員   | 村上由美子 | (経済協力開発機構 (OECD) 東京センター 所長)                                 |

### (主な発言)

#### <最近の国際放送の動きについて>

- 国内放送で7月8日（水）に放送した歴史秘話ヒストリア「ペスト 最悪のパンデミック」を見たが、医学者の北里柴三郎が取り上げられていた。ペストと新型コロナウイルスによるパンデミックについての類似性や、日本の医学者や科学者が伝染病との闘いにおいて、どのように世界に貢献してきたか紹介されており興味深い内容だった。国際放送でもぜひ放送してほしい。

また、国際放送全体の番組表について、例えば、NHKの番組情報誌「NHK ウィークリー ステラ」が発行されているが、国際放送については情報がないようだ。国際放送を広報する一環として情報誌などへの掲載があるといいと思う。

(NHK側) 国内放送番組は、必ずしもすべての番組が国際放送を前提としているわけではないが、頂いた意見を参考に、ふさわしい番組については、国際放送についても検討していきたい。

国際放送の番組表は、随時、ウェブサイトで公表しており、海外の放送事業者や配信事業者にも送っている。また、見どころを映像を含めて紹介した、英語版の番組ハイライトも送っている。「ステラ」については、国内放送の広報が目的で、国際放送に関する情報の掲載は、なかなか難しいと理解しているが、頂いた意見は今後の参考にしたい。

- 最近、「NHK WORLD-JAPAN」の表示や情報が、今まで以上に、国内放送番組でも目にとまる。「ステラ」にもぜひ掲載してほしいと思う。国内にも英語放送に触れたいと思っている潜在的な人はたくさんいるだろうし、学習効果もあるだろう。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、総合テレビやEテレでも再放送が増えていると感じる。国際放送の好評だった番組を国内で放送してもいいのではないかと思った。

(NHK側) 審議会でも意見を頂くことが多い特集番組などは、国際放送独自で放送した後、国内でも放送するケースがあるが、基本的にはBS1やBSプレミアム、Eテレでの放送が多く、総合テレビでの放送は比較的少ない。今回の新型コロナウイルス感染拡大下においては、国際と国内両方で放送された番組で評価の高いものは、再放送も何度か行い、戦後75年の今夏は、過去にアメリカで非常に高い評価を受けた番組の再放送を予定している。意見は大変ありがたく、今後も評価が高い国際放送の番組中心に国内での放送も進むよう検討していきたい。

## < 「NHK Documentary UNSOLVED CASES Oswald and JFK」

Part 1 The Pawn (6月13日(土) 10:10ほか)

Part 2 The Chessmaster (6月20日(土) 10:10ほか) について>

- JFK (ケネディ元アメリカ大統領) 暗殺を調査している専門家の存在を新たに知り、事件についての知識がさらに深まって興味深く見た。ただ、なぜこの番組をこのタイミングで制作したのか、きっかけがわからなかったので経緯を聞きたい。  
犯人とされるリー・ハーヴェイ・オズワルドの妻役の俳優の英語はロシア訛りがあり聞き取りにくく、内容を理解できない部分があったので、字幕が欲しかった。
- NHKスペシャル「未解決事件」は、新発見や新証言から未解決事件の謎の解決を目指すシリーズだと理解している。JFK暗殺は、アメリカでは映画やテレビ番組で取り上げられることが多いテーマで、かつ、CIAが関与していたという考えも広く知られていたと思う。大統領暗殺はアメリカ人にとって重いテーマでもあり、特にアメリカ人視聴者の反応がどうだったか知りたい。  
冒頭のアナレーションについてだが、陰謀に関する決定的証拠が見つかったという印象を与える内容だった一方で、最終的には、事実は謎のままという結論だったため、

若干、誤解を与えるのではないか。また、再現ドラマと証言や調査に関するインタビューの関係性が少しわかりづらく、もう少しうまく連動していると、より説得力のある番組になったのではないか。しかし、構成がドラマ仕立てになっていたことで、この事件に詳しくない視聴者でも楽しめる番組だったと思う。

- 今なぜNHKがこの番組を制作したのかということに加えて、アメリカのメディアもこの番組の制作に関与したのかも知りたい。

オズワルドをはじめ、再現ドラマの俳優の演技がうまく、緊迫感を持って畳みかけるような展開と構成でドラマに引き込まれたが、ドキュメンタリーとドラマとの境界はどこにあるのかという疑問をもった。事実の描写に加え、ドラマでは演出も加えている印象だが、冒頭の番組タイトルバックに使用されている映像は「NHK Documentary」の字幕とマッチしないと感じた。

- ドラマ部分は大変よくできていた。元CIA職員を含む66人の証言を基にしていて説得力が、ドラマとしても、ドキュメンタリーとしても、引きつけられた。

これまでのさまざまな説も承知した上で、この番組を見て、オズワルド単独では実行できなかったのではないかと考える材料を得ることができた。狙撃の後、比較的早く捕まったこと、また、オズワルドのプロフィールが拡散するスピードが速かったことは、偶然だとは思えない。オズワルドの射撃能力が単独で成功するほど高くなかったかもしれないということ、また妻にJFKに対する憎しみを話したことはなかったことを考え合わせると、背後に誰かがいたのではないかという考えに落ち着いた。

CIAの関与についても、積み重ねた取材結果から、可能性があるとして自然に導かれた。ただし、どの程度確信をもって番組を制作したかや、疑問が残っているとすれば、そのことも具体的に説明するべきではないかとも思った。

また、オズワルドの狙撃のほかに、同時に別方向からも撃たれた可能性について説明があったが、もう少し科学的な説明を加えてほしかった。ウォーレン委員会（大統領特命調査委員会）の報告書とは異なるシナリオだっただけに、最新科学による具体的な分析を期待した。

もう一つの疑問は、CIA関与の組織的動機だ。CIA自身をはっきりと説明することは無いと思われるので、番組でどこまで踏み込んで語るのか、制作の過程でどのように検討したか知りたい。

- 暗殺について、事実として当然知ってはいたが、この番組を見て、ああ、そういう面が強かったのかと思った。日本との関わりについても触れられていて日本人にとっても興味深い内容だった。

白昼、目撃者が多い暗殺であったにも関わらず、どうしてこんなに謎が多いのか。だからこそ今でも語られるのだと思うが、そこが少しでも明らかになったのかというと、見ている側からすると従来からの疑問は消えず、非常に重いテーマのドキュメンタリーを見たというのが正直な印象だ。

- NHKスペシャルの番組ウェブサイトに掲載されている「なぜいまJFKなのか？」という問いへの答えとして、「現代にも通じる様々なテーマが内包された、まだ終わっ

てない事件だから」という制作者のコメントを読んだ。また、「取材のきっかけは、トランプ大統領がケネディファイルを全公開するとしながら直前で撤回したこと」ともあり、きっかけは自然なものだと納得したが、タイミングとして、アメリカ大統領選が控えているこの時期に、NHKがJFK暗殺を扱った番組をアメリカでも放送して大丈夫なのか、政治的な意図を勘ぐられたりすることはないのかと、少し不安になった。

NHKスペシャル「未解決事件」は、これまで、日本の事件を扱ってきており、今回初めて国際的な事件であるJFK暗殺を取り上げ、国際放送で放送することには特別な意図があったのかどうか、また、アメリカの視聴者から反響があったのであれば知りたい。

- 今年はアメリカ大統領選挙の年であり、なぜ今のタイミングで放送したのかを知りたい。

また内容については、JFKの暗殺を巡る多角的な説についての説明が少し足りていなかったという気がする。初めて見た人にとっては、勉強になると同時に、説としては限られたもののみで構成され、偏った印象を与えてしまうのではないか。

番組が協力を求めた66人の専門家の分析をもっと詳細に検証して紹介したり、日本の番組なのだからJFK暗殺を研究している日本人の学者の意見も出したりする工夫があった方がよかった。

ドラマ部分はとてもよくできており、オズワルドの苦悩など、人間性がうまく描かれていた。日本人のミドリという女性が関わっていることは勉強になったが、当時の日米関係を研究している日本の学者を出したほうが、より理解が深まったのではないか。

- JFK暗殺を扱った国内外のドキュメンタリーに比べても、この番組は新しい事実、証言に裏付けられた迫力のある仕立てになっており、NHKの真骨頂だと思った。

JFK暗殺への道は日本が起源であったという非常に興味深い事実を知ることができ、CIAの内部でJFKへの反発が強まったという見方も、新しい驚きだった。

ドキュメンタリーとして証言の分析に加え、丹念な文書の読み込みをして、それを元にしたドラマを併用することでこの番組に迫真さが増している。ただ、どこまでが事実で、どこからが仮説なのか、判然としなくなるという問題があるように思った。

オズワルドやミドリ、ロシア人の妻マリーナのキャスティングもふさわしくしており、マリーナのロシア語訛りの証言は、あたかも記録フィルムを見ているかのような錯覚に陥った。

番組を見終わると、直ちにいろいろな疑問が湧いてきた。ケースオフィサーを操った上層部には、いったい誰がいたのか。CIAという組織はその後どのように変化を遂げたのか、あるいは同じような体質が残っているのかなど疑問が尽きなかった。そのため続編の制作を期待したい。

- 冒頭、日本が暗殺事件の起源であるということから、厚木コネクションという説が展開されていくのかと期待を持ったが、結局、そこから深まらなかった。そのため、なぜ日本のNHKがJFKの暗殺をめぐる陰謀、あるいは謎に関して番組を作るのか

がわかりにくかった。後半、66人の専門家をもっと前面に出したほうが番組としては落ち着きがよかったのではないか。

興味深かったのは、6月の審議会の視聴番組との共通点で、この番組も一種の調査報道であり、機密指定文書の解除が進めば、それ自体オープンソースに変わっていくので、情報公開を待ちながら分析が前に進んでいるということかと考えた。しかし、この段階でなぜNHKがこの番組を作る必要があったのかふに落ちない部分も残っている。

- ハリウwoodsの映画を見ているようで、エンターテインメント性もあり、楽しめた。番組を見るターゲットをどう考え、大統領選挙を控えたアメリカでどのように捉えられるか、政治的に使われる可能性に関して、どのように感じているのか、NHKの考えやこのような番組を作る意義について知りたい。
- ドラマ仕立てが非常によくできていた。特にロシア語訛りの英語を話すオズワルドの妻のキャスティングにリアリティーがあり、こうしたキャストを集め、ドラマ撮影をするのは費用も含め大変なものだっただろうと思う。

(NHK側) 国際放送で放送するきっかけについてだが、もともとNHKスペシャルと同時に、国際放送での展開も検討しており、総合テレビでは60分と54分だったものを国際放送では前・後編各50分に再編集して放送した。あくまで事実を積み上げて制作した番組であり、政治的意図は全くない。諸説あることについては、国内の放送ではNHKスペシャルの後に30分ほどのドキュメンタリーを放送していたが、国際放送では時間の関係上このドキュメンタリーは放送しなかった。

(NHK側) NHKスペシャル「未解決事件」は2011年からシリーズがはじまり今回が8作目だ。トランプ大統領がケネディファイルを全て公開すると宣言し、2017年12月に一部が公開された。そのタイミングでディレクターが新しいシリーズの制作を考え、2年近くかけて取材や制作し、番組として放送できたのが今だった。

また新たに元CIA職員の証言が得られたという理由もある。CIAは生涯守秘義務がある組織で、取材相手もすべてを語ることはできないだろうが、それでも新たな証言をしてくれたことが大きかった。

66人の専門家の紹介については、国際放送では、アメリカ国内などで既知の事実はなるべく割愛し、取材で得た新しい情報を中心に内容を構成した。

なぜNHKがやるのかという指摘については、日本のNHKだからこそ、取材を受けてもらえたという経緯もある。ケネディ元大統領のおいであるロバート・ケネディ・Jrは、アメリカ国内メディアの取材はほとんど受けない。他国のメディアだからこそ、アプローチできることもあるということを改めて感じた。

CIAの関与については、取材で得た証言等から確認が取れたもののみ

を紹介しているので、番組の内容については確信を持っている。

C I A 関与の動機の部分については、まだ残された最大の謎だと思っている。時がたつにつれて新たな証言や資料が出てくるということは、これまでも経験があり、後にアップデートをすることは、非常に大事な作業だと思っている。

(NHK側) アメリカ国内の番組モニターからのレポートをいくつか紹介すると、「ドキュメンタリードラマが成功していて大変わかりやすかった。ただ、ドラマが少々やり過ぎで、これが真実なのかと思うところもあった」「事実に基づいてはいるが、殺人ミステリーを見ているようだった」「多くのアメリカ人はこの事件について教科書で習う、ほんのわずかな知識しか持っていないと思うが、学校では教わらなかった新しい歴史を知ることができた」「このチャンネルでこのテーマを取り上げたことにまず驚いた。なぜこのタイミングなのかわからなかったけれども、オズワルドと日本との関わりを知ってからは納得した」などがあつた。

(NHK側) ドキュメンタリーに再現ドラマのシーンを融合させることの意味についてだが、ファクトとフィクションを両輪として強く組み合わせることができると考えている。

その分、ファクトとフィクションの境がわかりにくくなる側面もあるという指摘を頂いた。今後、検討を進めて、視聴者に誤解を与えない効果的なファクト・アンド・フィクションの融合したコンテンツを作っていきたい。